

近代日本における

書への眼差し

—日本書道史形成の軌跡—

高橋利郎 著

A5判・三二〇頁

定価 五、〇四〇円 (税5%込)

ISBN978-4-7842-1595-9

【二〇二二年一月刊行予定】

毛筆で書かれた肉筆の文字資料が、近代に「書」として位置付けられていく過程を、書道史に関する出版をはじめ、宝物調査や展覧会の列品、また文化財関連の法令から探り、近代における書道史形成の軌跡をたどる。さらに、近代数寄者が私的に書跡を鑑賞する場について考察し、彼らを取り巻く文化環境を総合的に理解し、その書跡へのまなざしの影響の大きさを論じる。



近代日本における書への眼差し
—日本書道史形成の軌跡—

●内容目次●

序章

書跡の評価に関する諸問題／「美術」と「書」の近代／美術史における書／書跡の位置付け

第一章 御歌所と仮名

一、歌と書

二、皇国の歌

歌会始と「日本」／御歌所の設置／御歌所と近代短歌／短歌の革新と御歌所

三、御歌所と書

仮名を書くことの意味／御歌所の歌人と古筆／自詠歌の揮毫／仮名の手本／御歌所歌人の広がり

四、文錯する和歌と書

第二章 日本書道史の構築

—大口周魚から尾上柴舟へ—

一、大口周魚の手鑑制作と書道史観

手鑑「月臺」と周魚／大口周魚と書／「月臺」の現状と制作背景／「月臺」の特徴／法書会「書苑」創刊の意味／「書苑」の解説と「月臺」／近世における手鑑の様相／手鑑「月臺」を通して見えるもの

二、尾上柴舟と書道史

柴舟と書／柴舟と書道史／柴舟の書作と理論／周魚と柴舟の書道史

第三章 国家の名筆

一、書跡の展観と列品

文化財関連行政と書／明治時代初期の古美術展観における書跡／東京国立博物館における列品としての書跡／京都国立博物館における書の展観／博物館の展観と書跡

二、文化財保護関係法令と書跡

文化財としての書跡／「古器旧物保存方」／臨時全国宝物取調局による調査から「古社寺保存法」へ／「国宝保存法」と宸翰の時代／「文化財保護法」の制定へ／法のもとでの書跡

第四章 近代における書跡鑑賞の場

一、近代の数寄者と書

近代における茶の湯と書／茶席に見られる書跡／古筆の影印と田中親美／近代的な数寄者の時代

二、近代文人とそのいとなみ

近代における文人の存在／近代文人と中国趣味／書籍メディアと詩文書画／近代文人の志向

終章

たかはし・としろう：一九七二年静岡県生。大東文化大学院博士課程後期課程修了、博士（書道学）。成田山書道美術館主任学芸員を経て、現在、大東文化大学文学部准教授。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	近代日本における書への眼差し	本体4,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1595-9	
お名前	tel				
	e-mail				
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				
					書店番線印

松花堂昭乗と瀧本流の展開

山口恭子著

本阿弥光悦、近衛信尹と寛永の三筆と並び称された松花堂昭乗。その書は瀧本流と呼ばれ、近世の書文化を席卷する一大書流へと成長していった。昭乗と瀧本流の書について造型的な面のみならず、昭乗の著述した文芸作品など、文献資料や版本に対する検討を行い、近世の書道史、出版史、文化史など広範な研究分野に新しい知見を提供する。

▶A5判・356頁／定価9,030円

ISBN978-4-7842-1559-1

三藐院 近衛信尹 残された手紙から

前田多美子著

本阿弥光悦・松花堂昭乗とともに「寛永の三筆」として日本書道史上にその名を謳われてきた近衛信尹。本書では信尹の生涯を彼の残した手紙から読み解き、隠れた素顔を明らかにし、さらに能書としていかに遇されてきたのか、その書とはどのようなものであったのかを改めて考えなおす。

▶A5判・270頁／定価2,415円

ISBN4-7842-1299-X

古筆切資料集成 [全6巻]

伊井春樹編

奈良・平安・鎌倉の貴重な古写本や卷子本が解体され、室町末期から江戸初期にかけて大量に出回った古筆切。本書では現物及び複製出版など、今日までに刊行されたものから、一葉ごとに忠実に翻刻し、作品別・伝称筆者順に集成。最終巻には補遺と共に詳細な索引を付す。『古筆切提要』の本文篇ともいえるものである。

▶A5判・平均470頁／揃定価51,450円

古今和歌集への道 国文学研究七十七年

久曾神昇著

古今和歌集の研究史上、不滅の金字塔を打ち立てた博士の永年にわたる研究生活を、古今和歌集・歌合・仮名書状・歌学・三十六人集・古筆学・郷土史などの各分野にわたって回顧。近代日本学芸史に足跡を残した研究者との交友、昭和の国文学研究の動向や折々の貴重な証言も書き留められている。

▶A4判・236頁／定価1,995円

ISBN4-7842-1221-3

革新の書人 河東碧梧桐

島田三光著

河東碧梧桐の書に魅せられ、その書作品・石文・看板等を求めて全国を廻り続け、碧梧桐に関するコレクションでは第一人者であり、書家としても活躍中である著者の所蔵する豊富な作品群を通して碧梧桐の書の世界を紹介。正岡子規の高弟であり虚子と並んで双壁と謳われる碧梧桐の書を見直すとともにその業績を後世に伝える一書。

▶A4判・210頁／定価5,250円

ISBN978-4-7842-1488-4

名家伝記資料集成 [全5巻]

森繁夫編

短冊の蒐集、伝記研究で知られた大阪の実業家、森繁夫氏が二十数年の歳月をかけて調査編集した草稿を、短冊、古筆など広く古典籍の蒐集で著名な中野莊次氏が更に二十数年かけて浄書、補訂したものである。鎌倉末期から昭和20年までに没卒した国学者・歌人・漢学者・文人・高僧・芸術家・政治家・志士等の45,000名の伝記資料を集大成。

▶A5判・総5,400頁／定価136,500円

ISBN4-7842-0682-5

近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。【目次】第一部 近代茶道の三つの転換期／第二部 伝統文化の解釈者たち／第三部 茶道への理論的アプローチ

▶A5判・454頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1377-1

近代京都研究

丸山宏・伊従勉・高木博志編

歴史都市・京都は、近代に大きく変わったまちであった——。京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れたら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果である。

▶A5判・628頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1413-6

平成新修古筆資料集 [全5冊]

田中登編

古筆切は国文学の研究上重要な資料であり、また優れた美術品でもある。それらは古筆を愛する人々や必要とする人々の共有財産となるべきとの観点から、編者蒐集の所蔵品の中から各約120点を解説と図版で分かりやすく紹介。

▶A5判・平均260頁／【第一集 品切】第二～五集 (各) 定価2,625円

近衛家熙写手鑑の研究 仮名古筆篇

村上翠亭・高城竹苞共著

陽明文庫蔵・近衛家熙写手鑑(予楽院臨書手鑑・重美)所収の仮名古筆(臨摸断簡)100点をとりあげ、全図を原寸大(一部縮小)で収録し、筆者名・古筆名・書誌事項・釈文等各1点ずつについて詳細な考証を加え、原本などの参考図版85点も併載。

▶A4判・280頁／定価12,600円

ISBN4-7842-0968-9

くずし字辞典

波多野幸彦監修/東京手紙の会編

天皇・公家・武将・僧侶・茶人・文人・商人などの実用の書である自筆消息(書状)からその筆跡(35,000字)を、また必要に応じて中国の代表的書家・文人からも拾集した画期的な辞典。著者総数400人をこえる筆跡を採集し、採字した各文字にはその人名を明らかにし、巻末に簡単な略歴を備えた人名索引、部首・総画・音訓の索引を付した。

▶A5判・1,452頁／定価6,300円

ISBN4-7842-1024-5

小松茂美 人と学問 古筆学六十年

田中登編著

被爆体験の病床で『平家納経』と出会い学究に志し、東京国立博物館を経て古筆学研究所を設立、ついには古筆学を大成した小松茂美博士の60年におよぶ学問のあゆみをたどる。第1部では、個々の著作に即してその内容と業績を紹介し、第2部では、折々の新聞記事と書評などを50篇を収録。

▶A5判・256頁／定価2,310円

ISBN4-7842-1120-9

画集 下村為山

瀧池楽齋編

松山に生れ、洋画から出発し、正岡子規の俳趣味に洗練され、自得発明した俳画で名を成した下村為山。本書は洋画・俳画(スケッチ・軸・画帖)・書の名品の数々を大型図版で紹介し、総説・解説、落款、印譜・年譜を付す。

▶B4判変・102頁／定価18,900円

ISBN4-7842-0837-2

*茶道と恋の関係史

岩井茂樹著

「恋は茶道の精神に反する」とされた一谷崎潤一郎の随筆にある興味深い一節をきっかけに、恋歌と茶道の関係を茶書や茶会記に探る。茶会の掛物のほか、茶道具の銘に隠された「恋」を紹介し、なぜ恋歌が問題となり、また使われることもあったのかを明らかにする。【目次】茶書中に見られる恋への言説/恋の茶会/銘の世界/恋とは何か?

▶A5判・232頁／定価3,990円

ISBN4-7842-1313-9

文人世界の光芒と古都奈良 大和の生き字引・水木要太郎

久留島浩・高木博志・高橋一樹編

近代奈良において水木要太郎(1865-1938)により形成された水木コレクションを主な分析素材とし、日本史・考古学・建築史・国文・美術史・地理学等にわたる学際的な一書。多岐にわたるコレクションの形成過程や収集意図のもつ歴史的意義を解明。国立歴史民俗博物館での共同研究の成果。

▶A5判・508頁／定価8,190円

ISBN978-4-7842-1481-5

みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編

平安や桃山時代がしばしば話題になる歴史都市・京都は、実は近現代に大きく変わったまちであった——。「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じ、さまざまな分野の具体的な主題をもとに、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。『京都新聞』に連載されたものを再構成。

▶A5判・268頁／定価2,730円

ISBN978-4-7842-1378-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。